

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4270400932		
法人名	有限会社鷺声		
事業所名	グループホーム本明の家		
所在地	〒854-0094長崎県諫早市本明町455番地1 (電話) 0957-25-1152		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年10月30日

【情報提供票より】(20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7人, 非常勤 4人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1階建ての	1～1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	9,000+実費 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 50 円
	または1日当たり	— 円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	—名	要支援2	—名		
年齢	平均 89歳	最低	80歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	諫早記念病院	草野内科小児科医院	中古賀歯科医院
---------	--------	-----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、コスモスの咲き乱れる静かな環境にあり、時折聞こえる電車の音も心地よい程度に耳に入ります。スプリンクラーやバリアフリーなど安全面に配慮された建物内には、入居者の外出時の写真が飾られています。スタッフは、ご利用者やご家族に安心して頂くことを重要視して作られた理念のもと、一人ひとりのご利用者に対し人生の先輩として接するよう心掛けておられます。ご利用者は日中、庭のコスモスが目を楽しませる中、パズルなどに取り組み各々のペースで過ごされています。運営者は、地域の自治会長を務められており、地域行事等にも積極的に参加されるなど、地域の中のホームという位置付けを大切にされています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果を踏まえた改善が実現されています。 改善活動は、改善計画シートにより改善課題を明確にした上で取り組まれています。半年ごとに改善活動を評価するなど、積極的な取り組みを行われており、改善の実績もうかがえます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) スタッフ全員での取り組みが行われています。 評価制度の意義がスタッフ全体に浸透するように、自己評価はスタッフ全員で取り組まれています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 開催頻度の充実により、これからの活動が期待できます。 開催頻度については、直近において前回8月・前々回6月と2ヵ月に一回の開催が実現されています。会議内容については、外部評価の報告や事故報告などが議事録から読み取れます。今後は定期的開催の継続及び内容の更なる充実によりサービスの質の向上につながる取り組みが期待されます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の意見の聴取に努め、運営に活かされることを期待します。 意見箱の設置や苦情相談対応手順の説明配付など、ご家族の意見を聴取する姿勢がうかがえます。今後はご家族の意見に基づくサービスの質の向上及びより良いホーム運営につながる取り組みを期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の中のホームといった位置付けを大切にされています。 地域行事を地域との協働の機会と捉え、積極的に参加されています。災害対策やご利用者の日常的な散歩の見守りなど、近隣との協力体制も築かれています。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念は、家庭的雰囲気作りや地域に溶け込める事業所作りを目指す意味で作成されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示され、カンファレンスや申し送りを活用した周知が行われています。スタッフは、理念にある「利用者がいきいき」といった表現に近づくことが出来るよう、日々の支援に従事されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は地域の自治会長を務めておられ、積極的に地域との関係性の構築を図られています。地域行事にも積極的に係わりを持たれ、小学校の行事参加などを通じて教育機関との良好な関係も構築されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果に基づいた改善活動は、半年毎に改善計画シートによる評価が行われています。自己評価についても全スタッフで取り組まれており、評価制度の意義の理解に努められています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については2ヶ月に1回の開催を目指した取り組みがうかがえますが、前一年間の実績は4回の開催といった状況です。内容的には外部評価の報告や個人情報保護法対応の件及び事故報告などが行われています。	○	直近では2ヶ月に一回の運営推進会議の開催が実現されているので、その継続について今後に期待します。また、議事録は内容の詳細が読み取れるように記録されることを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者介護課や保護課に都度相談されながら関係の構築が図られています。具体的事例としては、個人情報保護規程類に関する相談や利用者に関する相談などが行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書に同封する形で写真を添えた現状報告が行われています。また、健康診断結果の写しの配付なども行われています。状態の変化時などは、随時電話等の連絡を実施されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置されており、苦情対応の手順等についても資料を配付され説明されています。ご家族の訪問時には、要望等の聴取にも努められていますが、現状意見等は発生しておらず、具体的事例は確認できません。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの勤務については、連日勤務にならないよう配慮するなど、スタッフの負担の軽減に努められています。スタッフの定着率を上げ、利用者との馴染みの関係が持続できるよう配慮されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームにおける主だった外部研修受講履歴の把握や研修計画は作成されています。外部研修受講後は、研修報告書を作成されスタッフ間で閲覧し共有する仕組みもあります。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諫早市連絡協議会にて同業者との交流や意見交換が行われていますが、それ以外の方法についても検討されています。	○	各種連絡協議会への参加やグループホーム間の相互見学など、スタッフ同士の交流によるスキルアップや質の向上に向けての取り組みについて実現されることを期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはご本人やご家族の状況に応じてホームの見学や、ご本人との面会が行われています。入居直後はご家族に毎日状況報告及び相談しながら対応されています。入居にあたりご家族が3ヵ月ほど一緒に入居された事例もあるとのこと。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、入居者の方あつての私たちといった価値観を共有され、入居者の方を人生の先輩と捉えた対応を心掛けられています。ご利用者からの労いやお褒めの言葉、感謝の言葉を励みに寄り添う支援を心掛けられています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴シートや行動記録などを活用し、声かけによりご利用者の意向の把握に努められています。また、把握した意向などについては記録に残し、スタッフ間で共有される仕組みとなっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で聴取したご利用者やご家族からの情報及びスタッフの気付きなどについては、経過記録や行動記録、生活歴シートなどに記録され、その情報を基に介護計画が策定されています。策定された計画は、ご家族に説明し同意を得て、常にスタッフに閲覧が可能な状態で共有されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヵ月ごとに見直しが行われています。状態変化時など随時の見直しも行われているとのことですが、現状、入居者の状態が落ち着かれており介護計画の随時の変更には至っていないとのことで、事例の確認は出来ませんでした。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望や状況に応じて、通院介助や近隣のお墓参りなどの支援が行われています。また、理美容についてもご希望に応じて付き添う支援が行われており、近隣の通所介護事業所への訪問なども支援されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご利用者等の希望により選定され、健康診断の結果などについてはご家族にも配付されています。入退院についてもご家族やご本人及び医療機関と相談しながら支援されているとのことです。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は、状況に応じてご家族やかかりつけ医と話し合いが行われ、記録に残されています。実際に看取りの実績もあります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応など、ご利用者のプライドに対する配慮が見受けられます。個人情報保護法への対応も市の高齢者介護課と相談され規程類の整備に取り組まれています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけを積極的に行い、ご利用者の反応や表情から意向をくみ取り、ご利用者の意向を踏まえた対応を心掛けられています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園では、色んな野菜が栽培されており、菜園で収穫したのもも食卓に並ぶそうです。食事中は、スタッフが同じ食事を同じテーブルで食し、支援が必要なご利用者対応も行われています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一人ひとりの状態やタイミングに応じて支援されており、基本的にはご利用者の希望に添った対応が行われているようです。また、異性による入浴介助については、ご利用者はもちろん、ご家族の希望も踏まえて支援されているとのこと。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活歴などを活かした薬袋への名前書きや食器拭きなどが行われており、俳句やカルタ、パズルなどを楽しまれる事例も聴取できました。訪問時にはご利用者がパズルを楽しまれている姿も見受けられました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフや近隣の方の見守りのもと、毎日散歩に出かけられる方もおられるそうです。車椅子の活用などの事例も写真で確認できました。当日はお一人のご利用者にお見送りもして頂きました。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、見守りにより対応されています。安全面から玄関にはセンサーが使用されていますが、その音量には配慮がうかがえます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物にはスプリンクラーが設置されており、年2回の火災訓練も実施されています。地域への協力依頼も行われており、食料品の備蓄は隣接した運営者の自宅に確保されているとのことです。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については記録されチェックされています。食事量や形態の個別対応にも配慮されています。献立については、糖尿病療養指導士である管理者が作成されており、栄養士の助言も受けられています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは、庭のコスモスが目を楽しませ、季節に応じた飾りつけも行われています。ご利用者の外出時の写真が壁に飾られ、ご利用者はパズルに取り組むなど、各々のペースで過ごされています。また、清潔チェック表を活用した時間毎の環境チェックも行われています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には、特に制限を設けられておらず、タンス、時計、いす、テーブル、ラジオ等の持込が確認できます。冷暖房については特にルール化せず、ご利用者の状況に応じた調整を心掛けているとのことです。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。